

優秀賞（岩手県知事賞）

水のまち、盛岡

盛岡中央高等学校附属中学校

三年 宇塚 沙代

私の住む盛岡市は、毎年豆腐の消費量が全国上位にランクインしています。岩手県のイメージキャラクターは「わんこきょうだい」です。その中の、盛岡市のイメージキャラクターは、おわんの中におとうふが入った、「とふっち」です。私も、おとうふが大好きで、夏には冷たいおとうふになにもかけずに一人で一丁食べるほどです。

このように、盛岡は「とうふのまち」なのです。では、なぜ盛岡はとうふのまちになったのでしょうか。気になって調べてみると、主に四つの理由があるようです。

一つ目は、江戸時代、盛岡の地に城を築いた南部藩主が、京都などの先進地から多くの職人を招いた際、優秀な「豆腐職人」もおり、盛岡のまちに豆腐文化の

基礎を築いたこと。

二つ目は、その昔冷害などで米が取れにくかった時代に、海のない盛岡では、海の幸に代わる貴重なタンパク源として大豆が重宝されて食べられていたこと。

三つ目は、盛岡にはおいしい豆腐づくりに欠かすことのできない「良質で豊富な地下水」があったこと。

四つ目は、盛岡にスーパーマーケットができた当時、安売りの目玉商品として豆腐が大量に生産されたこと。

私は、おとうふは豆乳とにがりだけでできていると思っていたので、「良質で豊富な地下水があった」からとうふのまちになったということに驚きました。そして、「良質な」地下水とはどんなものだろうと思い、調べてみました。すると、盛岡には今もなお生活用水として守られ、使われている清水があることが分かりました。

盛岡では、昔から「盛岡十大清水」と呼ばれる名水があるそうです。現在も飲用などに利用されている清水は、「盛岡三清水」である、御田屋清水・大慈清水・

青龍水に大清水を含む四清水となってしまいました。しかし、現在は味わうことのできない清水の中には、明治天皇巡幸の折に献じられたほどの名水もあるそうです。

天皇に献じられたほどの「良質な」地下水ならば、おいしい豆腐ができないわけがないと思いました。

冷害で米が取れなくなった時代に、盛岡のおいしい地下水でつくられた、おいしい豆腐を食べて、生きのびた人がいると思うと、盛岡をとうふのまちにしてくれた地下水は、ありがたいものだと思います。

盛岡には、「豆腐買地蔵」というお地蔵さんがいます。このお地蔵さんは仲の良い親子の母親が重病にかかった際に、息子が豆腐を食べさせて治し、感謝の気持ちを入れて信仰するお寺に寄進されたといわれています。盛岡の人にとって豆腐とその原料の地下水は、命を救ってくれるものだったのだということが伝わってくるお話です。

私は、お米がなくて困ったことも、お水がなくて困

ったこともありません。それどころか、ご飯の他に菓子を食べることもあります。キッチンまで数歩歩けば水が飲める私は、盛岡の水の豊かさを意識したことがありませんでした。それでも、盛岡にはずっと十大清水があつて、大小合わせて九十五の川があつて。

もっと都会で暮らしたいと思うこともあります。でも、思い返してみればいいところだなと。

盛岡さば、自然と暮らしの物語が御座んす。

盛岡さば、暮らしど伝統がいっぺ詰まったお話が、ござんすのす。

盛岡さば、誰つてでも手っこ貸してすけてくなるのす。

まんつ、おでつてくなんせ。

「水のまち・盛岡」さ。

優秀賞（岩手県知事賞）

身近な水不足

奥州市立前沢中学校

三年 千田 ちだ 杏南 あんな

皆さんは水不足について考えた事はありますか？私はこの作文を通して、初めて真剣に水の事を考えました。ニュースでは度々、台風や浸水などの水の災害が取り上げられています。日本は島国なので周りが海で囲まれており、川もあるので水の災害は多いですが、水不足と言われてもあまりぴんと来ませんでした。ですが、実はその逆で、今は日本を含む世界中が水不足によって起きる問題に悩まされているのだそうです。ですが地球の表面の三分の二は水で覆われている、これだけで聞くと水不足になることはないように感じます。ところが、三分の二のほとんどは塩分をたくさん含んだ海水や氷河の一部です。海水は塩分が多く含まれすぎているので、そのままでは私達の生活には利用できません。どれだけたくさんの海水があっても、水

不足の解消にはなかなかつながらないので。

水不足について調べているとよく目にする言葉がありました。それは「バーチャルウォーター」という言葉です。バーチャルウォーターはその名の通り、本物の水のことではありません。バーチャルウォーターとは、食料や農作物を外国から輸入する国が、自分の国でそれらを生産すると仮定した場合に必要なとされる水の量です。日本の二〇〇五年のバーチャルウォーターの輸入量は、約八〇〇億立方メートル。これは日本で使用される一年間の水の量とほぼ同じなのだそうです。使った水の量と同じ量の水を、海外からの輸入に頼らなければならぬ日本。もしも水の輸入が止まってしまったら、日本から水が無くなってしまいかもしれません。これからの日本が水不足にならないために、今私に出来ること。それは水を流しっぱなしにするのをやめたり、お風呂の残り湯を再利用することによって、水の使用量を出来るだけ減らすのです。

この日本に住んでいると、蛇口をひねればいつでも

てきれいな水がでてきます。使いたいと思った時、すぐに水が使えるのです。そんな私たちが水の大切さを考える機会が少ないのではないのでしょうか。ですが、世界に目を向けてみると、水の問題は命に関わる深刻なものでした。例えばアフリカでは、不衛生で汚れた水を使うことによって、年間にしておよそ三〇万人、毎日八百人以上の赤ちゃんが汚れた水が原因で命を落としているという事実があります。今すぐに三〇万人の命を救うことは残念ながら出来ません。

ですが、今すぐに出来ることはありません。それは水を大切にすることです。水のむだ使いを出来るだけ減らし、大切に使う。水を大切にすることが将来的な水不足の解消につながるのではないのでしょうか。手を洗う時、歯を磨く時、水を流しっぱなしにしていますか？もし流しっぱなしにしているなら、今すぐに止めましょう。地球上の水は循環しています。私が少しでも水を大切にすることが出来れば、汚れる水はほんの少し減るのです。これを私だけではなく、私の家族や

周りの人にも広めていきたいです。私が水の大切さを周りに広めれば、周りの人々の意識を変えることが出来るかもしれません。今まで流しっぱなしにしていた水を少し止めるだけで、地球をきれいに保つことが可能になります。生きていく上でどうしても水が必要になる私達は、水を大切にすることで未来を変えることが出来るのです。生きる上で欠かせない水を、大切に使う。これから先もきれいな水を使い続けられるように。今私に出来ることを、すぐに始めたいと思います。

優秀賞（岩手県知事賞）

人々の健康と水への思いやり

一戸町市奥中山中学校

三年 中なか嶋しま 歩あゆみ

ひび割れた粘土色した広大な大地に、わずかな水たまり程の水。大地と同じ色で底の見えない水を、汚れた大きな柄杓で飲んでいる小さなこどもの姿。

冬休みの図書館で手にした「水と人々の健康」と題した、一冊の本の表紙に使われた写真は、あまりにも悲しい現実で、命を継ぐための水はとても汚れ、命を削る水だったかもしれません。日本から遠く離れたアフリカの一部では、五歳以下のこどもの生存率がとても低く、その原因の多くは不衛生な水によるものだと知り切なさがこみあげました。

私達、日本人の多くは浄水場で衛生、安全に処理された水を利用して生活しています。一日に使用する量は一人当り約三百リットル、二リットルのペットボトルで並べるなら百五十本程になります。本当にそれほ

ど必要なのでしょうか。節約できないのでしょうか。

九年前の震災時、被害の多かった地域で最初に配られた水が、紙コップわずか半分だけだった事を知り、山間部の私達は九年の歳月の中で少しずつ、水への感謝の気持ちや、思いやりを忘れてしまったような気がしました。反省しなくてはいけません。

米の研ぎ洗いに必要な水は、重量の十倍相当です。

この研ぎ汁に含まれるヌカは、リンやチッ素などの栄養分がとても多いのですが川や海を汚し魚を死滅させてしまうというマイナス面があります。しかし、排水に流さず植木や花だん、畑にかけると肥料になるという事をどのぐらいの人が知っているのでしょうか。絶えず循環している尊い水を汚し、問題点を探すことなく限りある資源をとっても無駄使いしているのです。わずかにコップ半分の牛乳であっても、魚が住めるほどきれいにするには家庭用浴槽十杯分もの水が必要になります。絵の具や墨汁で汚れた水、ドレッシングの残った皿。洗う前に、ほんの少しだけ「流した後の事。」

を考えてみると、節水への心掛けにつながるような気がします。すぎ一回で済む洗濯用の洗剤、泡切れの良い食器洗剤。環境に優しい物がたくさんあり、それは資源を大切にする意識の高さから生まれたものでしょう。汚さない工夫や努力はとても大切だと思います。

河川の水質調査で県内九十パーセントの地域が「きれいな水」と判定され、今でこそ水の豊かなこの岩手も、四百年程前は作物の育たない荒地であったと学びました。唱歌、「春の小川」のモデルとなった東京の地は、詞のおもかげを残さず埋めたてられ下水が流れているのだそうです。長い年月の間に失われ、壊されていく自然。守らなくては姿を変えていくのです。緑鮮やかな大地と水のある風景、ささやきのように聞こえる穏やかな川の流れを、大切にしていかななくてはいけません。

水の惑星と言われる、地球の大部分は海水で直接飲料として口にすることはできません。豊富にあるように見えて実は限られた水なのだと、肝に銘じ

て生活していかなければいけないのです。

尊い水でありつづけるよう今できる事を少しずつ行動に移し、一人一人が水への感謝の心と思いやりを持ち生活すれば、この地の川や海はもつときれいになり、いつか必ず、地球上の人達すべてが平等に、「命を継ぐ衛生な水。」を使える日が来ると信じています。

流れる川の水は、朝日に照らされ輝き、夕日を映し四季を運んでいます。どうかこの流れが、未来へと続きますように。

優秀賞（岩手県知事賞）

水資源を守っていく

盛岡中央高等学校附属中学校

三年

細田 萌々菜ほそだ ももな

私は昨年、学校の学習旅行で台湾に行って来ました。現地に着いて一番最初に先生から言われたのが水についてでした。

「ホテルの部屋の蛇口から直接水は飲む事が出来ません。冷蔵庫の中にあるペットボトルの水を飲んで下さい。」

と言われ、部屋の蛇口をひねってみると、日本と何ら変わらない透明な水が出てきました。

何故飲めないのか。台湾人のバスガイドの方に聞いてみたところ、台湾の水道管の多くが古いもので、衛生的に水を運ぶ事が出来ないから、お腹を壊すのとでした。バスガイドさんから、

「水道から直接水が飲めるって素晴らしいことよ。良いわね。」

と羨ましがられました。台湾の水道水を飲用にするには、約五分間沸騰させなければならないとのことでした。

台湾から帰国後、私はウェブサイトで日本人の水の意識調査についてまとめられているものを見つけ、読んでみました。

世界の中で、水道水を直接飲むことが出来る国は約十五ヶ国しかなく、日本はその中に含まれています。しかし、日本は世界最大の水資源輸入国となっています。水資源の中には、「仮想水（バーチャルウォーター）」という考え方があります。食糧や工業製品の生産には、食糧を栽培するのに必要な水、家畜の飼育に必要な水、工業生産の加工や洗浄に必要な水など大量の水資源を必要とします。つまり、日本は水そのものの輸入はそれほど多くはありませんが、食糧や工業製品の輸入を通して、他国の水資源を多く消費しているということになります。

私は、目から鱗が落ちる思いでした。直接輸入する

ミネラルウォーター等だけでなく、そういった間接的な仮想水の消費の方が遥かに多いという事実には驚きました。

我が家では小さな庭で母が家庭菜園をされており、季節になると、ピーマン、キュウリ、ミニトマト、オクラ、ハーブ等、年によって違います色々な野菜を育てています。最初の何年かは水道水で水やりをしていましたが父が「もったいないなあ。」と言って、ガレージの雨どいから直接、雨水を貯めるタンクを作ってくれました。ボウフラなどがわからない工夫をしたもので蛇口付きです。母も時々、米のとぎ汁を「どうせ捨てるものだし栄養あるからね。」と言って水やりに使っています。私も靴を洗ったり、ちよつとしたものの泥を落とすのに使ったりしていました。先程述べた様な水資源のことなどは深く考えていない行動だったのですが、水環境に良いことをしていたのだなと後から思いました。

世界の中には大変多くの人々が、安全な水が手に入

らない環境にあり、毎日多くの子供が汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としたり、毎日長い時間をかけて水汲みに行って学校にも通えない子供がいるという事実をテレビ等を通して知りました。

私達は日本がどんなに恵まれているか自覚し、感謝しなければなりません。我が家のことは、ほんの一例ですが、他にも水を流しっぱなしの歯磨きや、シャワーの出しっぱなしを止めるなど、今日からでも出来ることは沢山有ると思います。

これから先の未来、人口の増大や温暖化の影響により、水資源はますます悪化していくことが懸念されます。一人一人が意識を変えて行く事が必要です。皆で取り組んでいけば、消費も膨大な半面、節水も膨大なのですから。

優秀賞（岩手県知事賞）

かけがえのない水と共に

盛岡中央高等学校附属中学校

三年 村松 一朗
むらまつ いちろう

九年前の今日、三月十一日、私は初めて水の怖さと大切さを同時に思い知った。それは東日本大震災。私のはあの時まだ五歳で、その日は祖父母の家に行った。午後二時四十六分、今までに経験したことのない大きな揺れと共に生活は一変した。私は幼かったため細かいことまでは鮮明に覚えていないが、水の二面性を知ったのはあきらかにこの時だ。祖父母の家で両親と共に共同生活を始めた時、父や母が他の飲料水や食糧よりも、まず最優先に水の確保をしていた姿がうっすらと記憶にある。そしてしばらく経ってから目にした津波の映像は衝撃だった。水が姿を変え、これほど驚異的な形となって一瞬で人や建物を流し去ってしまうなんて。当時の自分にはただただ恐怖心だけが残った。それから数年が経過し、その時より少し成長した私

は、水について考えさせられる機会をもつ。新聞のある記事に目がとまったのだ。「震災後、一番急がれたのは被災地へ支援物資を送ること。その時に、おにぎりやパンなどが送られ、それはとてもありがたく命をつなぐものになったのだが、食べ物にアレルギーがある人達にとっては食べられない物も多く困っている」という記事だった。私自身も食べ物にアレルギーがあるのでその気持ちがよく分かった。そんな時でも、水はどんな人にも安全に潤いを与え、命を保つ、まさに「魔法の飲み物」だと感謝した。そして話は前に戻るが、私が五歳だった震災のあの日、いろいろな物が寸断され先が見えない不安の中、両親が何よりも早く水を確保しようとしたのは、その為だったという事が理解でき、点と点がつながると同時に、水の尊さがより深く心に刻まれた。

その他にも、私が小学校高学年の時に入団していた野球のスポ少で、真夏の練習時、喉がカラカラになった後に飲んだ水は、すうっと体に染み入る特別な感じ

を与えてくれた。また、大事な試合の前で目が回りそうなくらい緊張していた時に口に含んだ水が、自分に冷静さを取り戻してくれたこともあった。それだけでなく水は時と場合によって、味が変わることも知った。それは九歳の時。私はひどく体調をくずし、入院生活と絶食を余儀なくされた。その時は治療のため仕方がないと思いつつも、空腹に耐えきれず気が狂いそうになっていた。その時に唯一飲めた水の味と言ったら…。本当においしかった。「魔法の飲み物だ！」と改めて思った瞬間だった。

「水」とは私達にとって、どういうものなのだろうか。「水」から人類が生まれたと言っても過言ではない。およそ四十六億年前地球が誕生し海ができ、約四十億年前に生命が誕生したと言われている。その時に必要だったのが、太陽と水。微生物が誕生し、その後生命は進化を遂げ人類が誕生。そして今も尚、水は生命に欠かせない物である。しかし、その何も変わらない水が今、平等ではなくなってきた。日本は水に恵ま

れた国と言えるが、実は、水道の蛇口をひねると安全な水が出てくる国はほとんどないのだ。この水の格差問題を解決する為には、何をどこから着手したらいいのか、今の私には知識不足で正直分らない。しかし、これは水の怖さと大切さを知った私達が取り組んでいくべき重要な問題であることに間違いはないだろう。私達の住む地球は「水の惑星」なのだから。

二〇二〇年三月十一日。あの東日本大震災から丸九年を迎えた今日は朝からどしやぶりの雨だった。その為なんとなく暗い気持ちでニュースを見ていると、発生時刻の午後二時四十六分を過ぎた頃、宮城県で大きな虹がかかったと映像がでた。水は虹という希望さえも写し出したのだ。この虹は私達に水の尊さをやさしく思い出させ、未来へ背中を押してくれたのだと私はそう感じた。

佳作（岩手県知事賞）

水は世界共通

花巻市立花巻北中学校

三年 安堵城あんどしろ 百花ももか

私は、寝る前にラジオをよく聞きます。聞いている中でこのような言葉を聞いたことがあります。「汚れた水たまりの水を飲んだ子が亡くなった」この言葉を聞くと南東・南アジアを中心とした貧しい国々の人々や人口が多い国に暮らす人々は清潔な水に恵まれていないことが分かります。それに比べて日本などの清潔な水に恵まれた国々はどうでしょうか。きれいな水で歯をみがいたり、シャワーを浴びたりすることができるため、髪を洗っているときや、歯をみがいているときなどにお湯や水を流しっぱなしにしてはいないでしょうか。

水がどれくらい大切か。毎日考えている人は少ないと思います。二〇一一年に起こった東日本大震災。私たちが暮らす花巻市は幸い被害が少なく安心していま

した。しかし、沿岸部に暮らしていた人々は津波によって大切な人や美しい風景、そして、電気や水を失ってしまい苦しい生活をしていたとテレビで見ていると改めて水の偉大さを知らされます。そして、震災を伝えることができる人々がいるのはなぜだろう、と考えると、あるニュースを思い出しました。それは、たくさんの方から物資や水が届けられたという内容でした。そのため、被災地の復興や震災について伝えることができる人がいるのだと水の大切さや国のつながりを感じました。

あたりまえにある水。無限に使える水。そんな考えではないか絶対水が使えなくなります。貧しい国々に暮らしているために清潔な水が使えない、災害の影響によって水が使えない。そのような人々がいると考えることができれば、きっと水の大切さを知ることができます。

水は無限に使えないこと、深刻な環境に暮らしているため清潔な水が飲めない人がまだたくさんいること

を知って、これからも水を大切に使いたいです。そして、きれいな水が飲めること、使えることは良いことでもあるし、これからも大切に使用していかねなければならぬという考えを持ち、生活しましょう。また、清潔な水が飲めない国をどんどん少なくしていかなければならないと思います。日本を中心とした国々の団体が水を清潔にする活動を行っています。水からつながる世界交流が私たちの知らない間に行われているのです。

ほしい。それが私の考える世界へ向けた一つの願いです。

限りある資源を大切にしようと考えることができたこと、そして日々の人々の生活を支えている水を大切にしていくなこと、そして、家族や友人に水の大切さや世界には水が使うことができなかつたり、清潔な水が使えなかつたりする地域が多いのだということを伝えていくことや、私自身も水の無駄使いをしないことを意識しながら日々を過ごして、これから世界中の人々が清潔な水を使えるようになることを願い、世界中のたくさんの人々が水を無駄使いしない世の中になって

佳作（岩手県知事賞）

「水」の意味

盛岡中央高等学校附属中学校

三年

熊倉 くまくら 涼花 すずか

水。泉からわき、川を流れ海にたえられたり雨と
なつて降つてきたりする、冷たい液体。きれいなもの
は無色透明で飲料に適し、生物の生存に不可欠。これ
は、「水」を辞典で調べた結果だ。さすが辞典。水につ
いて分かりやすく簡単に書かれている。

この説明の一つ目は、水循環の話だ。水循環とは、
海水や地表面の水が蒸発して雲になり、雨や雪になつ
て地上に降り、それが集まり川となって海にたどりつ
くというように、絶えず循環していることなのだが、
ここから分かるように、水は常に私たちのまわりに存
在し、循環している。しかしここで問題がある。近年、
温暖化や、降水量の変動による、洪水や渇水が課題と
されている。これに影響をうけるのが、先程述べた水
循環だ。水循環は、循環の過程でどこか一つでも問題

が起きてしまうと、その他の過程や環境まで壊れて、
崩れていってしまうそう。水と関わるからには、私
たちは循環が崩壊するのを止めるためにできることを
やらなければならない。そのためにできることの一つ
として、循環に影響を与えている地球温暖化を少しで
も止めるということがある。これは、様々な場所で話
し合われているため、一人一人が意識できるといい。

辞典で調べたことの二つ目には、水はきれいなもの
だと無色透明で、飲料に適しているとある。確かに私
たちはきれいな水を飲んだり、お風呂・トイレに使つ
たりと多くの場所で活用している。しかし、それは日
本が水に恵まれ、下水処理がされているからできるこ
と。世界全体をみると、安全な水を安心して飲むこと
は、とても難しいことだ。例えば、汚染された不衛生
な水を飲んだ子供が病気になったり、感染症に感染し
たりして、命を落とす、命は落とさなくても、泥や細
菌、動物の糞尿などが混じっている水を飲んでしまえ
ば、抵抗力の弱い人は、体調不良になってしまう。ま

た、世界には水問題によって教育をうけられない子供もいる。このような問題に私たちは何ができるのか。

さすがに私たちには、国に行つて水を届けたり、子供の体調を一瞬で治したりするなどのことはできない。ただ、世界にはどのような水問題があるかを知ることから始めればよい。できるのであれば、支援活動などに協力をすればいい。もっと簡単にできることは、とても大事な水を、どんどんむだ遣いするのではなく、安全な水を安心して飲めるのは、すごいことであるということを考え、節水などをして水を大切に使うことである。

辞典で調べたことの三つ目には、生物の生存に不可欠とある。人間・猫・犬・鳥・魚。どの生き物も水と関わって生きている。人・猫・犬・鳥は、水を飲まなければ死んでしまう。魚は水の中で生活し、水中の酸素を取り入れて生きているため、水の中に住まなければ死んでしまう。水循環の過程の中にも海があり、海が無ければ海の生き物は死んでしまう。今までに述べ

たことからでも、生き物には水が必要不可欠だということが分かる。

私は今まで何も考えずに、ただただ水を飲んで、使つて生活してきたが、今回この作文を書くことによつて、水がどれだけ大切で、水を安心して飲めることがどれほど素晴らしいことなのかを、改めて確認することができた。辞典に書いてある内容だけで、こんなにも水について学べることには驚いた。しかし私が水について知っていることは本当に少しだけである。これから、「水の日」というのも意識しながら、私の知らない「水」を学んでいこうと思う。

佳作 (岩手県知事賞)

私たちには口がある

盛岡中央高等学校附属中学校

二年 佐藤 さとう 夏音 かのん

私たちの身近にある命の源、水。私たち人間は、口を使ってそれを頂きます。

日本では蛇口をひねればきれいな水を飲むことができます。しかし、世界全体を見渡すとそれはまだ難しく、現在約九億人もの人が、遠出して運んでこななければ水を飲むことができないという現状です。また、彼らの多くが口にする水とは、日本のようにきれいな水を管理するような施設もないため、汚染されているものがほとんどです。

私たちには口があります。私たちはもう一度この現状について考え、議論し、それを知った一人一人が、自分の言葉で発信する必要があるのではないのでしょうか。アフリカの水問題でよく取り上げられるのはトイレ

問題だと思えます。アフリカのトイレ環境は衛生的にみて、非常に悪く、これによって感染症を引き起こして命を落としたり、毎日の下痢によって、栄養を良く摂れず、マラリアや肺炎などの病気に対する免疫力を奪ったりしてしまう危険性も考えられます。実際にアフリカの寿命は、世界ランキングで下の方を占めており、また、アフリカの子も達は遠くから水を運んでくることに精一杯で教育を受けることもできない状況です。それによって子ども達は、水問題や衛生面に関心が湧くこともなく、世界では約二十六億人もの人がトイレを使用できないという悪循環を生んでいるのではないかと考えます。

また、水問題で一番深刻なのは「飲み水問題」だと思えます。世界では水を遠くから運んでくるという技術も発達していないため、子どもや女性たちが毎朝出発して夜に帰ってくるという現状があります。そのため、子ども達は学校に通えず、女性たちは働きにでることもできません。世界全体での協力によって、最近

ではそのような地域に井戸が作られるようになりました。しかし、それでも未だにバケツなどで遠くから水を運んでいる人たちがいるという現状があるのも事実です。一九六四年に東京オリンピックが開催された頃の日本では井戸が主流でした。そして、その後の日本の高い技術によって、世界的に見ても安全な水を確保することができるようになったのです。この日本の素晴らしい技術を知った上で、私たち日本人には何ができるでしょうか。

私は、日本全体で世界へ向けて、ユニセフ団体などに募金をしたり、自分たちの食生活を見直ししたりすることができると思います。ユニセフ団体などに募金をすることは、日本にいながら最も簡単に世界の難民を救えると思います。

また、自分たちの食生活を見直すと、外国産の食料を多く輸入しています。この状況を仮想水で考えると、日本人は水を使いすぎています。だから、その対策として、日本の食料自給率を高める努力を一人一人して

いくといいと思います。高めることによって、世界の水が難民の人のもとに届く機会が増えるかもしれないのです。

また、私は普段から水を大切に扱うことも重要なことだと考えます。例えば、食器を洗う時に洗剤を多く使わないことです。洗剤の量が多すぎると、洗う時の水の量も増えてしまいます。このように、身近でできることから取り組んで、習慣づけていくことが未来にもつながっていくと思います。日本の水道水のような安全できれいな水は無敵ではありません。この世の中からきれいな水が無くなれば、動物は絶滅してしまいます。絶滅を逃れるためには、先ほどの例のような取り組みを一人一人が実行すると思います。

水によっておこる問題はこれから先、たくさんあると思います。だからこそ普段から自分が心がけていくこと、また自分からそれを周りの人に発信することが大切だと思います。

「私たちには口があるのですから。」

佳作（岩手県知事賞）

水から教わるあたりまえ

奥州市立胆沢中学校

三年

鈴木

響那

朝、目覚めたら必ず飲むコップ一杯の水。蛇口を捻れば流れる水。私は、これがあたりまえだと思っていた。それがあたりまえではないこと、もっと「あたりまえじゃない」があることを「水」で知った。

初めて知ったのは、小学三年生の頃。それを知るまで、私は水があまり好きではなく、ジュースを飲むことの方が多かった。そのころの自分にとって水は、味もしないのにならなくてもいいのでは？生活に使うのだから、水ではなく、他の物で皿洗いや洗濯などやればいいと思うような、身近すぎるものであった。しかし、授業で水について学習するときだった。先生が「世界中で綺麗な水が飲めるわけじゃない。」と言った。私はそれを初めて知って、おどろいた。いつでもどこでも綺麗な水が飲むことが出来ると思っていたからである。

ここから私は、水への興味がわいてきた。

偶然、目に入ってきたテレビ。そのテレビには貧しい暮らしをしている子供達の姿が映されていた。学校にも行けず、何時間もかけて小さな体で水を朝から調達しに行く子供。命を紡いでいくため、汚れている泥水を飲む子供。私はその映像を見て、とても心が痛くなった。自分は果たして、こんなに苦労して水を飲んだことはあっただろうか。泥水など汚い水を飲んだことはあったか。私は、どちらもない。きっと、ほとんどの人がそうであろう。蛇口を捻れば流れる無色透明の水。苦労することだってない。蛇口を捻るだけなのだから。それが「あたりまえ」だと自分は錯覚していたのだ。私は自分が嫌になってしまった。あたりまえではないことを、あたりまえだと思っていたことに。考えてみれば、これは水だけではない。電気やガス、自分の暮らしたってそうだ。これらだってあたりまえに手に入るものではない。日本は世界的に見れば、裕福な方だ。だから、あたりまえのように最低限の生活

は出来る。けれど、世界を見たらどうだろうか。水と同じように、ガスや電気を使えない人々が沢山いる。使えないから、どうにか工夫して生活している人、たとえ手に入っても、少しづつ無駄のないように大切に使う生活している人。生き抜くためにこんなに苦労しているのだ。それを知ると、自分も気をつけなければならぬと強く思うようになった。

私は偶に水を出しっぱなし、電気を点けっぱなしという人を見かける。以前の私なら、それを見ても「どうせ、水はまた出てくるし、電気だって消えることなんてないのだから。」と思って、止めることは無かっただろう。けれど、これらのことを学んだ今では、見かけるとすぐに止めるようになった。母がよく言っていた「やりっぱなしはやめなさい。」という言葉も、今は私の口癖となっている。電気やガスを使うこと。それらを使っている生活。これらはあたりまえではないことを、水から沢山教わった。この教わったことを自分だけではなく、周りの人にも伝えていきたい。そうす

ることで、世界がもっと豊かになると思うから。あたりまえではないということをしつかり胸に刻んで、水を大切にしていきたい。

佳作 (岩手県知事賞)

今、感じる感謝

花巻市立花巻北中学校

三年 古館 ふるだて 春乃 はるの

日本に限らず世界中に猛威をふるう新型コロナウイルス。その予防として、帰宅した時、食事の前、掃除の後など以前より手洗いの数が増え、さらに、休校により日常生活で使う水、消毒に使う水と水を使うことが多くなっているのではないか。日本では水道から安全な水が出るため不便はないが、世界を見渡すとどうなのだろうか。日本と外国の水の問題を考えてみた。

調べてみると、水道の水を使えるのは、全体の七十パーセントの五十三億人で、世界の三割の人は水道を使えず、水源まで水をくみに行かなければならないことが分かった。さらに、後開発途上国では、人口の約四分の三が水と石けんを使うことができる手洗整備を使用できないことも分かった。このような状況では予防したくても、手洗いや消毒ができない。それどこ

ろか、安全な水を使えないと、むしろ感染リスクが高まってしまふ。

このことを知り、日本に住んでいる私達は安全な水を使うことができ、水不足にならないで生活できていることに感謝しなければいけないと思った。そして、水に限りがあることを忘れずに大切に使おうと思う。

では、なぜ日本は安全な水を水道から得ることができているのだろうか。それは、世界でトップクラスの綺麗な水道水をつくる浄水場の人のおかげである。

日本の水道水はそのまま飲むこともできるほど安全で、世界でも珍しいと言われている。浄水場では、有害物質を取り除き、水を消毒するといった仕事がある。消毒には次亜塩素酸ナトリウムがつかわれていて、新型コロナウイルスを殺菌することもできるため、感染することを心配せず、手洗いや、料理、飲料水として使用できている。また、日本の水道水が枯渇しないでいられるのは、配水池に保管しているからである。東日本大震災の時、水道が止まってしまふ、困った人が

たくさんいたと思う。このような災害に備えるといった意味でも、重要な役割を担っている。今回の新型コロナウイルスでも、浄水場が止まってしまいうことがあ
るかもしれない。そんな時、手洗いや生活に使う水を
少しでも確保するために配水池が助けしてくれるだろう。

今回、調べて分かったことは主に二つある。

一つ目は、日本は水に困ることは少ないからこそ、
水を大切に使うべきだと学んだことである。外国では、
使いたくても使えない、感染しないか不安なのだとい
うことを忘れずに生活したいと思った。

二つ目は、普段使っている水は、浄水場の人の努力
が込められていることである。このような時でも、私
達の健康のため安全な水を作っている浄水場の人は、
自分が感染しないかといった不安もあると思う。それ
でも、健康のため、生活のために水は欠かせない。今
だからこそ、浄水場の人への感謝、安全な水への感謝
を忘れてはならないと強く思った。